

福祉心理学科

DP	評価の観点		大学卒業時までに身に付けて欲しいレベル		4年生に向けての中間地点		4年生に向けての中間地点		大学入学時に身に付けてほしいレベル	
	項目	項目の解説	4	3	2	1				
DP1 共生社会づくりにつながる、基礎的な知識・技能を身に付けている。	教養と専門分野の基礎的知識・技能	専門分野の基礎的知識・技能	十分な教養と専門的知識を兼ね合わせ、自ら専門的な専門分野の内容を説明することができる。	自分の選択した専門分野の知識の理解を積み重ねている。また、大学で得得すべき幅広い分野の科目(総合基礎科目含む)を十分に修得している。	自分の選択した専門分野についての基礎的な知識を修得している。また、大学で得得すべき幅広い分野の科目(総合基礎科目含む)を十分に修得している。	大学の学びのために必要な教科書の基礎学力を身に付けている。また、自分が選択する専門分野に関する興味・関心について、十分な学力を身に付けている。				
DP2 多様な価値観を理解し、共に生きる社会をめざして行動できる。	共生社会の態度	多様な価値観と共生社会実現に向けた態度	多様な価値観を持っている人たちがそれぞれが尊重される社会の実現に向け行動できる。	自ら異なる個性や考え、価値観を持っている人との積極的なコミュニケーションを図ることができる。	自分と異なる個性や考え、価値観を持っている人を尊重できる。	様々な個性や考え、価値観を持っている人を知ることを知っている。				
DP3 高い倫理観をもち、他者と協働して新たな価値を創造することができる。	協働する力	立場の異なるものが、一つの目的に向かって、それぞれの特性をまわって役割分担しながら取り組むための力	他者と協働作業をするときに、全体の目的を理解し、その達成に向けてメンバーの役割に応じた役割を考え、目的達成のために行動できる。	他者と協働作業をするときに、自分の役割を適切に果たす。他者のメンバーの役割を理解し意見を述べることができる。	他者と協働作業をするときに、与えられた役割を他者と協働しながら責任をもって作業ができる。	他者と協働作業をするときに、自分も他のメンバーと同等の役割に責任があることを理解している。				
	他者理解と創造	相手のことを理解しようとする中で、異なる考えに触れて起こるアイデアの創造	他者の価値観や考え方の差異を理解することで、自身の価値観や考え方が影響を受け新たなアイデアを創造することができる。	他者の価値観や考え方を受け止め、対話を通じて相手への理解を深め解釈し、言葉にすることができている。	相手の言っていることを受け止め、自分なりに理解しようとするときに、不明点を質問することができる。	自分のことを伝え、相手のことを理解しようとする態度がある。				
DP4 ソーシャルワークや心理的支援に関する専門的な知識・技能を身に付けている。	ソーシャルワーク・心理的支援に関する知識・技能	ソーシャルワークや心理的支援に関する専門的知識・技能	ソーシャルワークや心理的支援に関する専門的知識から効率的に必要な情報を収集し、分類することができる。	ソーシャルワークの理論に関する専門的知識・技能について理解しており、社会での活用について実践している。	ソーシャルワークや心理的支援に関する専門的知識・技能について理解し、活用している。	ソーシャルワークや心理的支援に関する専門的知識・技能について理解し、活用している。				
DP5 ソーシャルワークや心理的支援の専門的視点から明確な課題意識をもち、論理的に自分の考えを創ることができる。	情報の収集と分析	種々のメディアを介して情報を検索・収集し、適切な情報を精査し分析する力	ソーシャルワークや心理的支援の専門的視点から効率的に必要な情報を収集し、分類することができる。	種々のメディアから必要な情報を十分に収集し、適切な情報を取捨選択するとともに、情報を比較し、分類することができる。	種々のメディアから必要な情報を複数収集し、適切な情報を取捨選択する。	種々のメディアから必要な情報を収集することができる。				
	論理的思考力	目の前にある課題に対して、複数の客観的な根拠の中から適切なものを選択し、筋道を立てて組み分け納得解を導くための力	課題解決に向けて、複数の客観的な根拠やデータを適切に検証し、選択することができる。そこから根拠のある論理展開により自分の意見を組み立て、主張することができる。	課題解決に向けて、信頼できる複数の客観的な根拠やデータをもとに、自分の固定概念(思い込み)を更新し、自分の意見や考えをつくらることができる。	課題解決に向けて、客観的な根拠やデータもも、自分の意見や考えをつくらることができる。	課題解決に向けて、自分が適切に理由や根拠をもとに自分の意見や考えをつくらることができる。				
	問題の発見と解決	専門的な知識を使って、自分なりの問いを作り、その解決のための仮説を創るための力	教育や保育に関する専門的知識・技能について十分に理解しており、社会の中で活かすことができる。	教育や保育に関する専門的知識・技能について理解し、活用している。	教育や保育に関する専門的知識・技能について理解し、活用している。	教育や保育に関する専門的知識・技能について理解し、活用している。				
DP6 福祉や心理に関する諸課題の解決のために学び続ける意思をもっている。	自律的に学び続ける力	目の前の課題解決において、自らをコントロールして継続的に学ぶ力	自ら設定した目標に向かって、困難な課題でも自分自身でコントロールして学び続け、課題を乗り越えることができる。さらには結果を評価し、次の行動に活かすことができる。	自ら設定した目標に向かって、試行錯誤しながら取り組み、その結果を振り返ることができる。	示された目標に向かって、自ら学びの最後まで粘り強く取り組むことができる。	示された課題に対して、サポートを受けながら解決に向けて取り組むことができる。				

健康福祉学科

DP	評価の観点		大学卒業時までに身に付けて欲しいレベル		4年生に向けての中間地点		4年生に向けての中間地点		大学入学時に身に付けてほしいレベル	
	項目	項目の解説	4	3	2	1				
DP1 共生社会づくりにつながる、基礎的な知識・技能を身に付けている。	教養と専門分野の基礎的知識・技能	専門分野の基礎的知識・技能	十分な教養と専門的知識を兼ね合わせ、自ら専門的な専門分野の内容を説明することができる。	自分の選択した専門分野の知識の理解を積み重ねている。また、大学で得得すべき幅広い分野の科目(総合基礎科目含む)を十分に修得している。	自分の選択した専門分野についての基礎的な知識を修得している。また、大学で得得すべき幅広い分野の科目(総合基礎科目含む)を十分に修得している。	大学の学びのために必要な教科書の基礎学力を身に付けている。また、自分が選択する専門分野に関する興味・関心について、十分な学力を身に付けている。				
DP2 多様な価値観を理解し、共に生きる社会をめざして行動できる。	共生社会の態度	多様な価値観と共生社会実現に向けた態度	多様な価値観を持っている人たちがそれぞれが尊重される社会の実現に向け行動できる。	自ら異なる個性や考え、価値観を持っている人との積極的なコミュニケーションを図ることができる。	自分と異なる個性や考え、価値観を持っている人を尊重できる。	様々な個性や考え、価値観を持っている人を知ることを知っている。				
DP3 高い倫理観をもち、他者と協働して新たな価値を創造することができる。	協働する力	立場の異なるものが、一つの目的に向かって、それぞれの特性をまわって役割分担しながら取り組むための力	他者と協働作業をするときに、全体の目的を理解し、その達成に向けてメンバーの役割に応じた役割を考え、目的達成のために行動できる。	他者と協働作業をするときに、自分の役割を適切に果たす。他者のメンバーの役割を理解し意見を述べることができる。	他者と協働作業をするときに、与えられた役割を他者と協働しながら責任をもって作業ができる。	他者と協働作業をするときに、自分も他のメンバーと同等の役割に責任があることを理解している。				
	他者理解と創造	相手のことを理解しようとする中で、異なる考えに触れて起こるアイデアの創造	他者の価値観や考え方の差異を理解することで、自身の価値観や考え方が影響を受け新たなアイデアを創造することができる。	他者の価値観や考え方を受け止め、対話を通じて相手への理解を深め解釈し、言葉にすることができている。	相手の言っていることを受け止め、自分なりに理解しようとするときに、不明点を質問することができる。	自分のことを伝え、相手のことを理解しようとする態度がある。				
DP4 ヘルスリテラシー、ケアワーク、ソーシャルワークに関する専門的な知識・技能を身に付けている。	ヘルスリテラシー、ケアワーク、ソーシャルワークに関する専門的知識・技能	ヘルスリテラシー、ケアワーク、ソーシャルワークに関する専門的知識・技能	ヘルスリテラシー、ケアワーク、ソーシャルワークに関する専門的知識・技能について十分に理解しており、社会の中で活かすことができる。	ヘルスリテラシー、ケアワーク、ソーシャルワークに関する専門的知識・技能について理解し、活用している。	ヘルスリテラシー、ケアワーク、ソーシャルワークに関する専門的知識・技能について理解し、活用している。	ヘルスリテラシー、ケアワーク、ソーシャルワークに関する専門的知識・技能について理解し、活用している。				
DP5 ヘルスリテラシー、ケアワーク、ソーシャルワークの専門的視点から明確な課題意識をもち、論理的に自分の考えを創ることができる。	情報の収集と分析	種々のメディアを介して情報を検索・収集し、適切な情報を精査し分析する力	ヘルスリテラシー、ケアワーク、ソーシャルワークの専門的知識から効率的に必要な情報を収集し、分類することができる。	種々のメディアから必要な情報を十分に収集し、適切な情報を取捨選択するとともに、情報を比較し、分類することができる。	種々のメディアから必要な情報を複数収集し、適切な情報を取捨選択する。	種々のメディアから必要な情報を収集することができる。				
	論理的思考力	目の前にある課題に対して、複数の客観的な根拠の中から適切なものを選択し、筋道を立てて組み分け納得解を導くための力	課題解決に向けて、複数の客観的な根拠やデータを適切に検証し、選択することができる。そこから根拠のある論理展開により自分の意見を組み立て、主張することができる。	課題解決に向けて、信頼できる複数の客観的な根拠やデータをもとに、自分の固定概念(思い込み)を更新し、自分の意見や考えをつくらることができる。	課題解決に向けて、客観的な根拠やデータもも、自分の意見や考えをつくらることができる。	課題解決に向けて、自分が適切に理由や根拠をもとに自分の意見や考えをつくらることができる。				
	問題の発見と解決	専門的な知識を使って、自分なりの問いを作り、その解決のための仮説を創るための力	ヘルスリテラシー、ケアワーク、ソーシャルワークに関する専門的知識・技能について十分に理解しており、社会の中で活かすことができる。	ヘルスリテラシー、ケアワーク、ソーシャルワークに関する専門的知識・技能について理解し、活用している。	ヘルスリテラシー、ケアワーク、ソーシャルワークに関する専門的知識・技能について理解し、活用している。	ヘルスリテラシー、ケアワーク、ソーシャルワークに関する専門的知識・技能について理解し、活用している。				
DP6 健康や福祉、介護、医療に関する諸課題の解決のために学び続ける意思をもっている。	自律的に学び続ける力	目の前の課題解決において、自らをコントロールして継続的に学ぶ力	自ら設定した目標に向かって、困難な課題でも自分自身でコントロールして学び続け、課題を乗り越えることができる。さらには結果を評価し、次の行動に活かすことができる。	自ら設定した目標に向かって、試行錯誤しながら取り組み、その結果を振り返ることができる。	示された目標に向かって、自ら学びの最後まで粘り強く取り組むことができる。	示された課題に対して、サポートを受けながら解決に向けて取り組むことができる。				

子ども学科

DP	評価の観点		大学卒業時までに身に付けて欲しいレベル		4年生に向けての中間地点		4年生に向けての中間地点		大学入学時に身に付けてほしいレベル	
	項目	項目の解説	4	3	2	1				
DP1 共生社会づくりにつながる、基礎的な知識・技能を身に付けている。	教養と専門分野の基礎的知識・技能	専門分野の基礎的知識・技能	十分な教養と専門的知識を兼ね合わせ、自ら専門的な専門分野の内容を説明することができる。	自分の選択した専門分野の知識の理解を積み重ねている。また、大学で得得すべき幅広い分野の科目(総合基礎科目含む)を十分に修得している。	自分の選択した専門分野についての基礎的な知識を修得している。また、大学で得得すべき幅広い分野の科目(総合基礎科目含む)を十分に修得している。	大学の学びのために必要な教科書の基礎学力を身に付けている。また、自分が選択する専門分野に関する興味・関心について、十分な学力を身に付けている。				
DP2 多様な価値観を理解し、共に生きる社会をめざして行動できる。	共生社会の態度	多様な価値観と共生社会実現に向けた態度	多様な価値観を持っている人たちがそれぞれが尊重される社会の実現に向け行動できる。	自ら異なる個性や考え、価値観を持っている人との積極的なコミュニケーションを図ることができる。	自分と異なる個性や考え、価値観を持っている人を尊重できる。	様々な個性や考え、価値観を持っている人を知ることを知っている。				
DP3 高い倫理観をもち、他者と協働して新たな価値を創造することができる。	協働する力	立場の異なるものが、一つの目的に向かって、それぞれの特性をまわって役割分担しながら取り組むための力	他者と協働作業をするときに、全体の目的を理解し、その達成に向けてメンバーの役割に応じた役割を考え、目的達成のために行動できる。	他者と協働作業をするときに、自分の役割を適切に果たす。他者のメンバーの役割を理解し意見を述べることができる。	他者と協働作業をするときに、与えられた役割を他者と協働しながら責任をもって作業ができる。	他者と協働作業をするときに、自分も他のメンバーと同等の役割に責任があることを理解している。				
	他者理解と創造	相手のことを理解しようとする中で、異なる考えに触れて起こるアイデアの創造	他者の価値観や考え方の差異を理解することで、自身の価値観や考え方が影響を受け新たなアイデアを創造することができる。	他者の価値観や考え方を受け止め、対話を通じて相手への理解を深め解釈し、言葉にすることができている。	相手の言っていることを受け止め、自分なりに理解しようとするときに、不明点を質問することができる。	自分のことを伝え、相手のことを理解しようとする態度がある。				
DP4 教育や保育に関する専門的な知識・技能を身に付けている。	教育や保育に関する知識・技能	教育や保育に関する専門的知識・技能	教育や保育に関する専門的知識・技能について十分に理解しており、社会の中で活かすことができる。	教育や保育に関する専門的知識・技能について理解し、活用している。	教育や保育に関する専門的知識・技能について理解し、活用している。	教育や保育に関する専門的知識・技能について理解し、活用している。				
DP5 教育や保育の専門的視点から社会に課題意識をもち、論理的に自分の考えを創ることができる。	情報の収集と分析	種々のメディアを介して情報を検索・収集し、適切な情報を精査し分析する力	教育や保育の専門的知識から効率的に必要な情報を収集し、分類することができる。	種々のメディアから必要な情報を十分に収集し、適切な情報を取捨選択するとともに、情報を比較し、分類することができる。	種々のメディアから必要な情報を複数収集し、適切な情報を取捨選択する。	種々のメディアから必要な情報を収集することができる。				
	論理的思考力	目の前にある課題に対して、複数の客観的な根拠の中から適切なものを選択し、筋道を立てて組み分け納得解を導くための力	課題解決に向けて、複数の客観的な根拠やデータを適切に検証し、選択することができる。そこから根拠のある論理展開により自分の意見を組み立て、主張することができる。	課題解決に向けて、信頼できる複数の客観的な根拠やデータをもとに、自分の固定概念(思い込み)を更新し、自分の意見や考えをつくらることができる。	課題解決に向けて、客観的な根拠やデータもも、自分の意見や考えをつくらることができる。	課題解決に向けて、自分が適切に理由や根拠をもとに自分の意見や考えをつくらることができる。				
	問題の発見と解決	専門的な知識を使って、自分なりの問いを作り、その解決のための仮説を創るための力	教育や保育に関する専門的知識・技能について十分に理解しており、社会の中で活かすことができる。	教育や保育に関する専門的知識・技能について理解し、活用している。	教育や保育に関する専門的知識・技能について理解し、活用している。	教育や保育に関する専門的知識・技能について理解し、活用している。				
DP6 教育や保育に関する諸課題の解決のために学び続ける意思をもっている。	自律的に学び続ける力	目の前の課題解決において、自らをコントロールして継続的に学ぶ力	自ら設定した目標に向かって、困難な課題でも自分自身でコントロールして学び続け、課題を乗り越えることができる。さらには結果を評価し、次の行動に活かすことができる。	自ら設定した目標に向かって、試行錯誤しながら取り組み、その結果を振り返ることができる。	示された目標に向かって、自ら学びの最後まで粘り強く取り組むことができる。	示された課題に対して、サポートを受けながら解決に向けて取り組むことができる。				